

2019年度 環境経営レポート

(対象期間:2019年6月1日～2020年5月31日)



タマタイ産業株式会社

作成日:2020年9月11日

改訂日:2020年9月28日

I. 取組の対象組織・活動

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

タマタイ産業 株式会社

代表取締役 大塚 雅司

(2) 所在地

本 社 〒700-0935 岡山県岡山市北区神田町2丁目1-25

金川工場 〒709-2134 岡山県岡山市北区御津下田450

建部工場 〒709-3121 岡山県岡山市北区建部町大田1425

白石工場 〒709-3121 岡山県岡山市北区建部町大田4610-1

(3) 環境管理責任者及び担当者の氏名・連絡先

責任者 金川工場長 大塚 翔 TEL : 086-224-3291

担当者 総務部課長 米山 正裕 FAX : 086-224-3310

E-Mail : m-yoneyama@lifos.co.jp

(4) 事業内容

木材チップ製造販売、樹皮を素材とした堆肥・肥料・マルチング材製造販売、
産業廃棄物処理業（中間処理）・収集・運搬、一般廃棄物収集・運搬、処分

(5) 事業の規模

法人設立年月日 昭和55年6月19日

資本金 2500万円

(2019年度実績) 売上高 841百万円

処理量（産廃・一廃合計） 48,969トン

受入量（産廃） 39,789トン

（一廃） 9,180トン

収集運搬量（産廃） 583トン

（一廃） 285トン

	本社	金川工場	建部工場	白石工場	合計
従業員（人）	7	24	10	0	41
延べ床面積（㎡）	34.23	1,173.87	4,150.28	392.64	5,751.02
敷地面積（㎡）	-	9,947.74	8,761.14	2,077.14	20,786.02

(6) 事業年度 6月～翌年5月

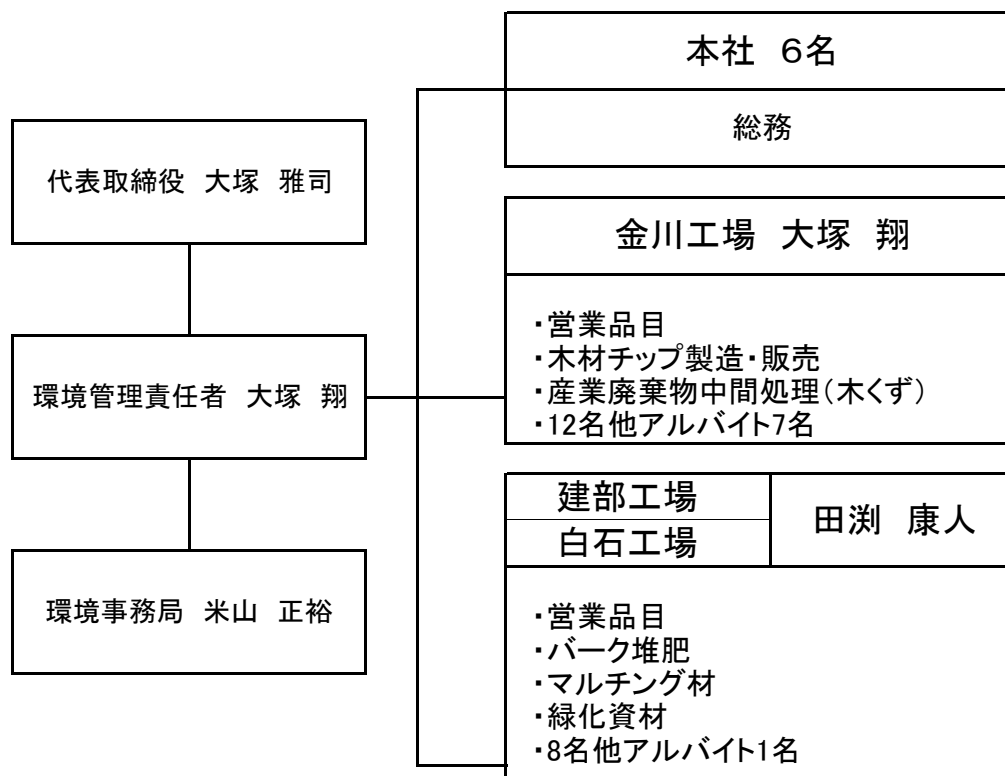
□認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名： タマタイ産業株式会社

対象事業所： 本社、金川工場、建部工場、白石工場

事業活動： 木材チップ製造販売、樹皮を素材とした堆肥・肥料・
マルチング材製造販売、産業廃棄物収集・運搬業および中間処理業、
一般廃棄物収集・運搬業及び中間処理業

実施体制



責任及び権限

1) 代表取締役 大塚 雅司

- ・環境経営に関する全ての責任と運用についての権限を持つ。
- ・環境経営システムの実施及び管理に必要な資源を用意する。
- ・環境管理責任者を任命する。
- ・環境経営方針の設定・見直し及び伝達を行う。
- ・代表者による全体見直しと評価を行う。
- ・環境経営レポートの承認。

2) 環境管理責任者 大塚 翔

- ・環境経営システムの構築、実施、管理する。
- ・環境関連法規制等の取りまとめ表を承認。
- ・環境経営目標・環境経営計画を確認。
- ・環境活動の取組状況を確認し、環境目標の達成状況を評価する。
- ・問題点の是正・予防処置に対する指示と改善や見直しを必要な処置を行う。
- ・環境活動の取組結果を代表者へ報告。
- ・環境経営レポートの原案・作成。

3) 環境事務局 米山正裕・岡本香

- ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。
- ・環境への負荷及び取組の自己チェックの実施。
- ・環境経営目標、環境経営計画原案の作成。
- ・環境経営の実績集計。
- ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理。
- ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。
- ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。
- ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付と地域事務局への送付)。

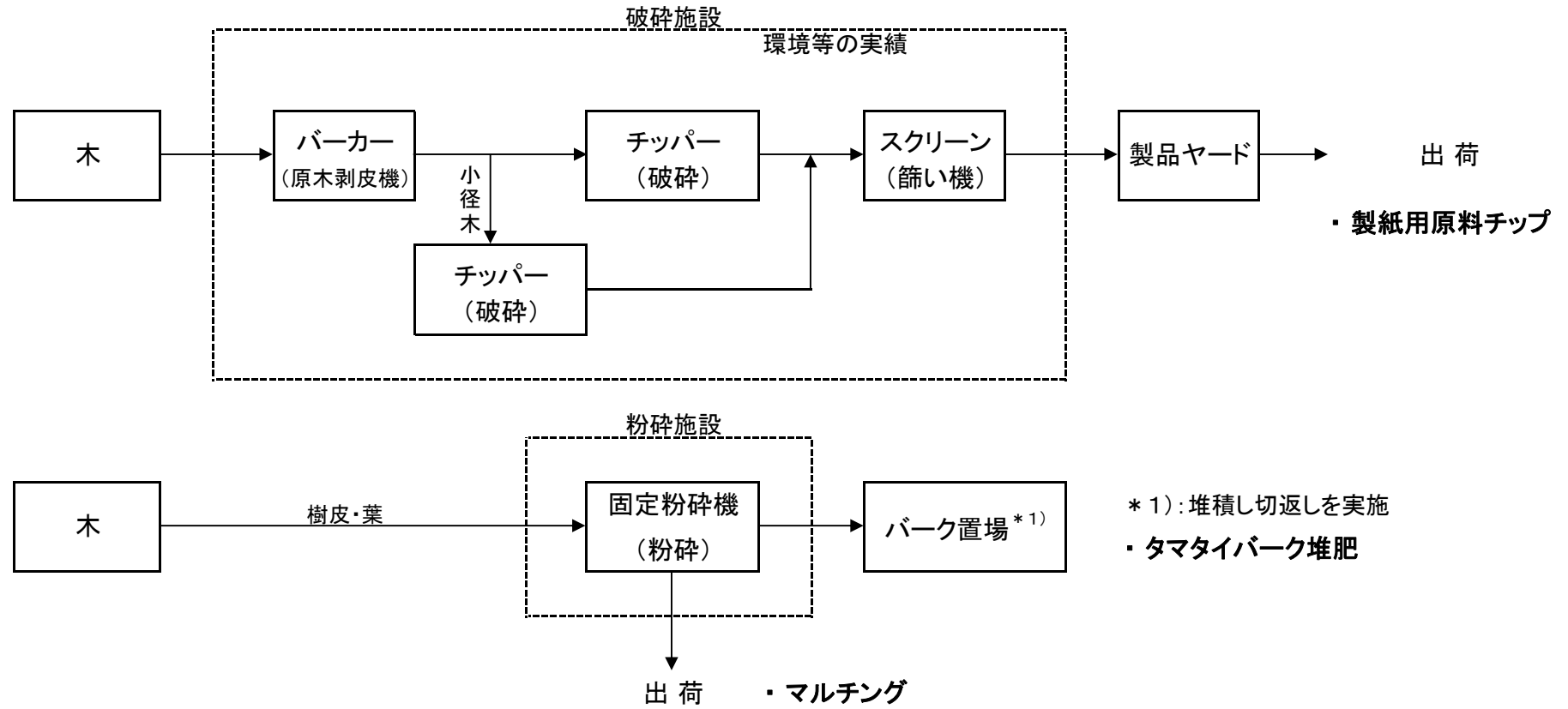
4) 各工場長 金川工場長 大塚翔・建部工場長 田淵康人

- ・工場における環境経営方針の周知。
- ・工場の従業員に対する教育訓練の実施。
- ・工場に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告。
- ・特定された項目の手順書作成及び運用管理。
- ・工場の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練、記録。
- ・工場の問題点の発見、是正、予防処置の実施。

5) 全従業員

- ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。
- ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

産業廃棄物施設の処理工程図



許可の内容

表(1) 処理施設の概要

※優良認定を取得しているため、有効年月日に変更があります。

2018年7月1日

①

















処理業関連	発行者	登録及び許可番号	届出及び許可年月日	許可の有効年月日	事業内容等	取扱品目
産業廃棄物処理業	岡山県知事	第3321015552号	平成21年2月28日	※ 平成35年2月27日	中間処理(移動式破砕) 設置場所: 岡山県(岡山市及び倉敷市を除く) 産業廃棄物排出事業場内 設置年月日: 平成15年9月2日 処理能力: 440t / 日(8時間) 設置許可番号: 第1-(8の2)-3号	木くず
	岡山市長	第08320015552号	平成21年2月28日	※ 平成35年2月27日	中間処理 (定置式破砕・粉砕、移動式破砕及びパーク堆肥化処理)	
					破砕(定置式)(金川事業所)	廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず 以上4種類 (石綿含有産業廃棄物及び自動車等破砕物を除く。)
					破砕(定置式)(建部事業所)	木くず 以上1種類 (石綿含有産業廃棄物を除く。)
					破砕(定置式)(金川事業所)	木くず 以上1種類 (石綿含有産業廃棄物を除く。)
					粉砕(移動式)	木くず 以上1種類 (石綿含有産業廃棄物を除く。)
	パーク堆肥化処理(金川事業場)	木くず、繊維くず 以上2種類				
パーク堆肥化処理(建部事業場)	木くず、動物のふん尿 以上2種類					
倉敷市長	第10020015552号	平成21年4月6日	※ 平成35年2月27日	破砕(移動式)	木くず (石綿含有産業廃棄物を除く。)	
産業廃棄物収集運搬業	岡山県知事	第33010155521号	平成21年4月19日	※ 平成35年4月18日		木くず、動物のふん尿 (これらのうち石綿含有産業廃棄物を除く。)
	岡山市長	第08310015552号	平成23年11月8日	※ 平成32年12月23日	積替え保管の有無【有】 ①積替え保管を行う場所及び面積並びに 保管する産業廃棄物の種類 ・岡山市南区海岸通二丁目3番23の一部 (面積550㎡) ・木くず 以上1種類(石綿含有産業廃棄物を除く) ②保管上限及び積み上げることのできる高さ ・990㎡ ・3m	木くず、動物のふん尿 (石綿含有産業廃棄物を除く。)
	兵庫県知事	第028060155552号	平成23年12月14日	平成33年1月9日		木くず
一般廃棄物処理業	岡山市長	4110	平成30年11月1日	平成32年10月30日	中間処理(選別・破砕・粉砕)	木くず
一般廃棄物収集運搬業	岡山市長	4105	平成32年4月1日	平成34年3月31日	一般廃棄物(事業活動に伴うごみ)の収集・運搬	木くず

②

処理施設の種類	産業廃棄物の種類	施設の場所	設置年月日	処理能力	処理方法	構造及び設備の概要
破砕機	木くず	金川工場	昭和62年11月30日	96t / 日	破砕	ナイフ方式 UTC603-3N型
破砕機	木くず	金川工場	平成15年1月6日	4.9t / 日	破砕	ナイフ方式 CKS-803型
破砕機(移動式)	木くず	金川工場	平成15年9月2日	440t / 日	破砕	回転ハンマー方式BR200T
破砕機(固定式)	木くず	金川工場	平成15年12月27日	440t / 日	破砕	回転ハンマー方式BR200T
破砕機(固定式)	木くず	金川工場	平成18年1月13日	4.79t / 日	破砕	ナイフ方式 PS103型
	廃プラスチック			4.57t / 日		
	紙くず			4.18t / 日		
	繊維くず			1.53t / 日		
破砕機(固定式)	木くず	金川工場	平成19年7月30日	104t / 日	破砕	ハンマー方式 HMP-1400型
破砕機(固定式)	木くず・動物ふん尿	建部工場	平成元年2月28日	24t / 日	破砕	ハンマー方式 HMP-720N型
粉碎機	木くず	金川工場	平成5年7月21日	36t / 日	粉碎	ハンマー方式 HMP-720型
パーク堆肥化処理施設	木くず・繊維くず	金川工場	平成18年1月13日	24t / 日	集積熟成	重機にて切り替えし
パーク堆肥化処理施設	木くず・動物ふん尿	建部工場	平成元年2月28日	24t / 日	集積熟成	重機にて切り替えし

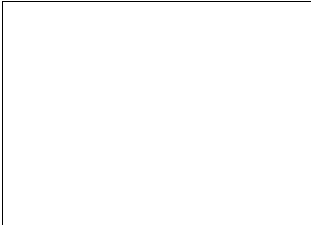
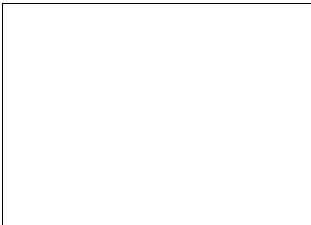
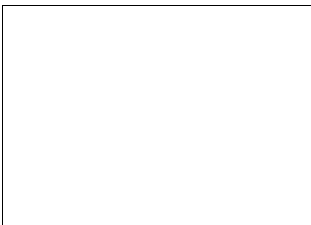
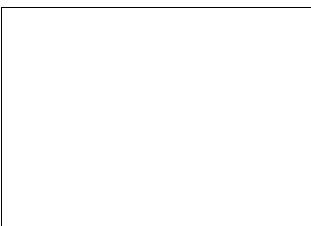
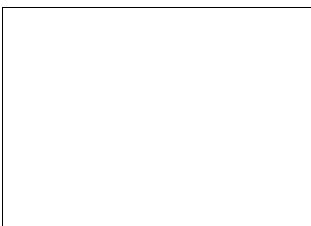
施設等の状況

車両一覧

岡山 100 さ 88-96		岡山 100 す 41-93		岡山 100 せ 705		岡山 100 は 46-07	
4tダンプ	積載量 3,500 kg	4tダンプ	積載量 3,500 kg	4tダンプ	積載量 3,050 kg	8tキャブオーバー	積載量 8,600 kg
車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真	
車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真	
岡山 11 ほ 58-48		岡山 100 さ 29-47		岡山 100 さ 91-48		岡山 100 せ 36-13	
10tダンプ	積載量 7,800 kg	4tダンプ	積載量 3,450 kg	4tダンプ	積載量 3,250 kg	4tダンプ	積載量 2,800 kg
車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真	
車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真	

施設等の状況

車両一覧

岡山 100 は 59-95							
10tダンプ	積載量 8,500 kg						
車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真	
車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真	
車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真	
車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真		車両正面写真	

タマタイ産業 株式会社

Ⅱ. 環境経営方針

タマタイ産業株式会社は、廃棄物処理業に携わる企業として、循環型社会の形成に貢献することを目指すとともに、事業活動を通じて環境負荷の低減に継続して取り組みます。

行動指針

1. 環境に関連する法規制や条例等を遵守します。
2. 節電と省エネルギーを進め、二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化防止に努めます。
3. 節水に努め、排出量を低減し、水資源の保全に取り組みます。
4. 廃棄物の削減と中間処理に伴う再資源化率の向上に努めます。
5. 事業全般における環境への配慮に努めます。
6. 環境への取組を環境活動レポートに取りまとめ公表します。

この環境経営方針は全従業員に周知します。

改定日：2019年6月1日

制定日：2012年6月1日

代表取締役社長 大塚 雅司

Ⅲ. 環境経営目標

方針	環境目標	年度目標	目標達成手段	
	売上高	-	-	
① 二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量の削減 基準年度の1%削減 ・単位: kg-CO2 / 売上高(百万円) ※下記項目のCO2へ換算後の 合計 / 売上高(百万円)	【基準年度実績】(2018年度) CO2排出量: 1,161,978.3 kg-CO2 売上原単位: 1,565.8 kg-CO2 / 百万円	下記の各項による。	
		【中期目標】		
		年度 目標値 基準年度比		
		2019年度 1,550.1 kg-CO2 / 百万円 99%		
		2020年度 1,534.5 kg-CO2 / 百万円 98%		
		2021年度 1,518.8 kg-CO2 / 百万円 97%		
	(二酸化炭素の排出項目の内訳)	1. 電力使用量の削減 基準年度の1%削減 ・単位: kwh / 百万円 ※CO2への換算係数 0.706 (2019年度より0.636) 2015年中国電力網実績値	【基準年実績】(2018年度) 電気: 718,631.0 kWh CO2排出量: 507,353.5 kg-CO2 売上原単位: 968.4 kwh / 百万円	・エアコンの温度管理 (冷房28℃・暖房20℃を目安) ・処理工程の効率化 ・照明管理 (未使用箇所の消灯) ・省エネ機器の導入
			年度 目標値 基準年度比	
			2019年度 958.7 kwh / 百万円 99%	
			2020年度 949.0 kwh / 百万円 98%	
2021年度 939.3 kwh / 百万円 97%				
	2. ガソリン使用料の削減 基準年度の1%削減 ・単位: L / 百万円 ※CO2への換算係数 2.32	【基準年実績】(2018年度) ガソリン: 4,668.2 L CO2排出量: 10,830.1 kg-CO2 売上原単位: 6.3 L / 百万円	・アイドリングストップ ・効率的なルートでの営業 ・適正な車両の整備 ・エコドライブ ・効率的、計画的収集	
		年度 目標値 基準年度比		
		2019年度 6.2 L / 百万円 99%		
		2020年度 6.2 L / 百万円 98%		
		2021年度 6.1 L / 百万円 97%		

(二酸化炭素の排出項目の内訳)	3.軽油使用料の削減	【基準年実績】(2018年度)			<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップ ・効率的なルートでの営業 ・適正な車両の整備 ・エコドライブ ・効率的、計画的収集 	
	基準年度の1%削減	軽油: 248,379.8 L				
	・単位:L/百万円	CO2排出量: 640,819.8 kg-CO2				
	※CO2への換算係数	売上原単位: 334.7 L/百万円				
	2.58	年度	目標値	基準年度比		
		2019年度	331.4 L/百万円	99%		
		2020年度	328.0 L/百万円	98%		
		2021年度	324.7 L/百万円	97%		
	4.LPG使用量の削減	【基準年実績】(2018年度)				<ul style="list-style-type: none"> ・不在時の小まめな消火 ・暖房器具の効果的設置 ・業務フロー見直し
	基準年度の1%削減	LPG: 991.6 kg				
・単位:kg/百万円	CO2排出量: 2,974.9 kg-CO2					
※CO2への換算係数	売上原単位: 1.34 kg/百万円					
3	年度	目標値	基準年度比			
	2019年度	1.60 kg/百万円	99%			
	2020年度	1.60 kg/百万円	98%			
	2021年度	1.30 kg/百万円	97%			
② 水使用量の削減	水道水使用量の削減	【基準年実績】(2018年度)			<ul style="list-style-type: none"> ・節水意識の向上 ・井戸水の利用 	
	基準年度の1%削減	水使用量: 2,833.0 m3				
	・単位:m3	【中期目標】				
		年度	目標値	基準年度比		
		2019年度	2,804.7 m3	99%		
		2020年度	2,776.3 m3	98%		
③ 廃棄物	1.一般廃棄物の削減	【基準年実績】(2018年度)			<ul style="list-style-type: none"> ・分別によるリサイクルの推進 ・事務用品の節約 	
	基準年度の1%削減	排出量: 1,471.0 kg				
	・単位:kg	年度	目標値	基準年度比		
		2019年度	1,456.3 kg	99%		
		2020年度	1,441.6 kg	98%		
		2021年度	1,426.9 kg	97%		

排出削減	2.受入廃棄物のリサイクル率の向上 【基準年実績】(2018年度) リサイクル率: 99.1 % 基準年度のリサイクル率維持 ・単位: %	【基準年実績】(2018年度) リサイクル率: 99.1 %		・処理困難物の受入 ・選別再資源化の模索
		年度	目標値	基準年度比
		2019年度	99.1 %	100%
		2020年度	99.1 %	100%
		2021年度	99.1 %	100%

排出項目の区分	削減目標	【基準年実績】(2018年度)	(2019年度)	担当者		削減率	備考
				金川	中野		
① 排出項目の削減	3.軽油使用料の削減	【基準年実績】(2018年度) 軽油: 248,379.8 L CO2排出量: 640,819.8 kg-CO2 売上原単位: 334.7 L/百万円	(2019年度) ・アイドリングストップ ・効率的なルートでの営業 ・適正な車両の整備 ・エコドライブ ・効率的、計画的収集	金川	中野		繁忙期のこともあり、使用量が増えています。処理フローの見直しによる、使用量機の削減が急務だと思います。
	基準年度の1%削減			本社	橋本		
	・単位:L/百万円			建部	内田		
	※CO2への換算係数			白石	-		
	2.58			基準年	L/百万円	347.7	
				目標値	L/百万円	344.2	
				実績値	軽油(L)	283,027.7	
					kg-CO2	730,211.3	
					L/百万円	336.4	
				月次評価		○	
① 排出項目の削減	4.LPG使用量の削減	【基準年実績】(2018年度) LPG: 991.6 kg CO2排出量: 2,974.9 kg-CO2 売上原単位: 1.34 kg/百万円	(2019年度) ・不在時の小まめな消火 ・暖房器具の効果的配置 ・業務フロー見直し	金川	中野		建部工場においてふるい機のメンテナンス時に使用しているLPG量が増加したものの、処理フロー等の見直しにより、改善を図ります。 *作業現場はポンペ単位で購入しており、実際の使用とタイムラグがある。
	基準年度の1%削減			本社	岡本		
	・単位:kg/百万円			建部	内田		
	※CO2への換算係数			白石	-		
	3			基準年	kg-CO2/百万円	1.38	
				目標値	kg-CO2/百万円	1.36	
				実績値	LPG(kg)	3,486.6	
					kg-CO2	10,459.8	
					kg/百万円	4.14	
				月次評価		×	
② 水使用量の削減	水道水使用量の削減	【基準年実績】(2018年度) 水使用量: 2,833.0 m3	(2019年度) ・節水意識の向上 ・井戸水の利用	金川	大塚		僅かながら達成することが出来ませんでした。予定していた井戸及び貯水タンクの設置が出来なかったため、来期は設置を目標に取り組みたいと思っています。
	基準年度の1%削減			本社	岡本		
	・単位:m3			建部	田淵		
	【中期目標】			白石	-		
				基準年	使用量(m3)	2,833.0	
				目標値	使用量(m3)	2,804.7	
				実績値	使用量(m3)	2,810.0	
				月次評価		×	
③ 廃棄物排出量削減	1.一般廃棄物の削減	【基準年実績】(2018年度) 排出量: 1,471.0 kg	(2019年度) ・分別によるリサイクルの推進 ・事務用品の節約	金川	大塚		分別を徹底し、かなり削減することができました。特に本社は紙の分別も徹底することが出来ています。各工場も本社を参考に、取り組むことが来期の目標です。
	基準年度の1%削減			本社	平井		
	・単位:kg			建部	田淵		
				白石	-		
				基準年	排出量(kg)	1,471.0	
				目標値	排出量(kg)	1,456.3	
				実績値	排出量(kg)	1,100.0	
				月次評価		○	
③ 廃棄物排出量削減	2.受入廃棄物のリサイクル率の向上	【基準年実績】(2018年度) リサイクル率: 99.1 %	(2019年度) ・他社処理困難物の受入 (例)根、竹 ・選別再資源化の模索	金川	中野		元々ほぼ100%なので、この数値を維持することに努めています。西日本豪雨災害後、選別が必要な廃棄物の増加が目立ちますので、今後はそういった処理困難物に取り組むことが出来たらと思います。
	基準年度のリサイクル率維持			本社	-		
	・単位:%			建部	-		
				白石	-		
				基準年	リサイクル率(%)	99.1	
				目標値	リサイクル率(%)	99.1	
				実績値	リサイクル率(%)	99.3	
				月次評価		○	

V. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
I. 二酸化炭素排出量総量の削減		
目標達成		
・下記の通り	○	2018年の西日本集中豪雨より発生した廃棄物受入の影響もあり、今年度前半は実績低調でしたが、後半挽回し、年間ベースでは目標達成できました(4項目中3項目が目標達成)。来期は新しい処理ラインの稼働が本格化するので、処理フロー見直しや、省エネ設備導入等を検討し、CO2削減の取組を強化いたします。
①電力使用量の削減		
目標達成		
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃を目安)	○	本社、工場一体で、電気の節約に努力し、年間ベースで目標達成できました。来期は新設備(固定式破砕機、選別機)が本格稼働するため電気使用量の増加が予想されるので、処理フロー見直しや、省エネ設備導入等を検討し、節電の取組を強化いたします。
・処理工程の効率化	○	
・照明管理(未使用箇所の消灯)	◎	
・省エネ機器の導入	◎	
②ガソリン使用量の削減		
目標達成		
・アイドリングストップ	△	左記の取組や営業車を環境適合車に更新した効果により、使用量が700L程度減少し、月次評価も概ね良好、年間ベースでも目標達成しました。来期も引き続き取組を継続してまいります。
・効率的なルートでの営業	○	
・適正な車両の整備	◎	
・エコドライブ	○	
・効率的、計画的な収集	○	
③軽油使用量の削減		
目標達成		
・アイドリングストップ	△	河川改修工事に伴う枝葉等の受入量が大幅に増加し、金川工場内の重機の稼働率が上昇したこともあり、後半の月別評価は低調でしたが、取組強化により年間ベースでは目標達成できました。来期は、業務フロー見直し等により節約を図ります。
・効率的なルートでの営業	○	
・適正な車両の整備	◎	
・エコドライブ	○	
・効率的、計画的な収集	○	
④LPG使用量の削減		
目標未達成		
・不在時の小まめな消火	○	建部工場のふるい機のメンテナンスに使用するLPGの使用量が増加したため、目標未達成となりました。来期は建部工場での改善に向けてメンテナンス方法変更を検討するなどして、使用量削減を図ります。
・暖房器具の効果的な配置	○	
・業務フローの見直し	△	
II. 水使用量の削減		
目標未達成		
・節水意識の向上	○	破砕量の増加に伴い、粉塵飛散防止を目的とした散水量が増加したため目標未達成。来期は井戸と貯水タンクの設置を検討し改善を図ります。
・井戸水の利用	×	
III. 廃棄物排出量の削減		
①一般廃棄物排出量の削減		
目標達成		
・分別によるリサイクルの推進	◎	本社を中心に分別によるリサイクル推進を徹底し、大幅に削減することができました。今期は各工場においても取組を強化致します。
・事務用品の節約	○	
②受入廃棄物のリサイクル率の向上		
目標達成		
・他社処理困難物の受入(例)根、竹	○	規準年度のリサイクル率はほぼ100%であり、この数字を維持できるよう取組みました。来期も他社で受入困難な廃棄物の受入に取組むなどし、リサイクル率の向上を図ります。
・選別再資源化の模索	○	

VII. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき要求事項(施設・物質・事業活動等)	遵守評価
廃棄物処理法	受入廃棄物の分別・保管・適正処分	遵守
肥料取締法	特殊肥料の届出	遵守
排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規程	対策型ステッカー添付の建設機械使用を確認	遵守
低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程	ステッカーを確認、地域別騒音基準の遵守	遵守
騒音規制法	地域別騒音基準の遵守、特定施設の事前届出	遵守
振動規制法	地域別振動基準の遵守、特定施設の事前届出	遵守
フロン排出抑制法	業務用空調機等使用機器の定期点検と記録、漏洩防止、廃棄時の適切な処理	遵守
道路交通法	道路交通法に定める法律の遵守	遵守
道路運送車両法	自動車の登録、車両の日常点検及び定期点検の実施	遵守
消防法	指定可燃物の取扱い、消防設備の点検	遵守
計量法	計量器の法定定期検査	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反、訴訟、或いは環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

VI. 環境関連法規等の遵守評価結果

法規制等の名称	該当する要求事項 (対応すべき事項)	判定	
廃棄物処理法 (処理業)	(一廃) 事業許可証の有効期限、契約書有効期限	○	
	(産廃) 事業許可証の有効期限、契約書有効期限	○	
	排出事業者との契約書の確認	○	
	排出事業者からのマニフェスト伝票受取り	○	
	B1、C2票の保管 (5年間)	○	
	運搬車両への表示義務、マニフェスト伝票の携行、許可書 (写し) の携行	○	
	排出事業者へのB2票の送付	○	
	処理実績報告	○	
	産廃処理施設 (破砕施設・選別施設) 設置変更許可 処理責任者の設置 技術管理者の設置	○	
	一廃処理施設 (破砕施設・圧縮施設選別施設) 設置変更許可 技術管理者の設置	○	
	帳簿の備付、記録、保管(5年)	○	
	産業廃棄物管理票交付状況報告	○	
	肥料取締法	特殊肥料の届出	○
	排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規程	対象事業が公共工事の場合	○
低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程	対象事業が公共工事の場合	○	
	地域別騒音基準の順守	○	
騒音規制法 岡山市環境保全条例	地域別騒音基準の順守 (岡山市環境保全条例による規制：空圧機・送風機 2.25～7.5kW以上、空調機 (冷凍機) 7.5kW以上)	○	
	特定施設の事前届出	○	
振動規制法	地域別振動基準の順守	○	
	特定施設の事前届出	○	
フロン排出抑制法	フロン類の登録充填回収業者による適切な引き渡し	-	
	フロン類回収時の委託確認書交付と引取証明書の保存(3年間)	-	
	引取証明書が30日以内に送付されない場合の知事への報告	-	
	第1種特定製品の点検・記録の保管 簡易点検:3ヶ月に1回以上	○	
	フロン類算定漏洩量の報告(漏洩量1000t-CO2以上)	-	
	機器の使用に関する義務	○	
	機器の廃棄等に関する義務	-	
道路交通法	道路交通法に定める法律の遵守	○	
道路運送車両法	自動車の登録	○	
	車両の日常点検及び定期点検の実施	○	
消防法	指定可燃物の扱い	○	
	消防設備の点検	○	
計量法	計量器の法定定期検査	○	

VII. 代表者による全体の評価と見直し記録

エコアクション21に工場、本社一体で取り組んでおり、従業員の環境活動に関する意識は着実に向上しております。一方で、岡山県が氾濫危険河川の改修工事を進めていることなどを要因として、近時、木くずの受入量増加が顕著になっております。

そういった状況下で、節電など省エネを積極的に推進し、二酸化炭素削減項目については目標を達成することができました。

しかしながら、「LPG使用量の削減」「水使用量の削減」は、目標未達成となりました。貯水タンクの設置等の施策を検討し、改善を図る所存です。

当社は経営方針に「循環型社会の形成に貢献することを目指す」を掲げており、事業規模の拡大と環境活動の両立を図りながら、継続的にエコアクション活動に取り組んでまいります。

項目	見直し 要否	見直し内容
環境経営方針	否	—
環境経営目標	否	—
環境経営計画	否	—
実施体制	否	—
その他	否	—

2020年9月10日

代表取締役 大塚 雅司